

聖壽萬歲萬々歳

慶會上の天長節大祝賀會

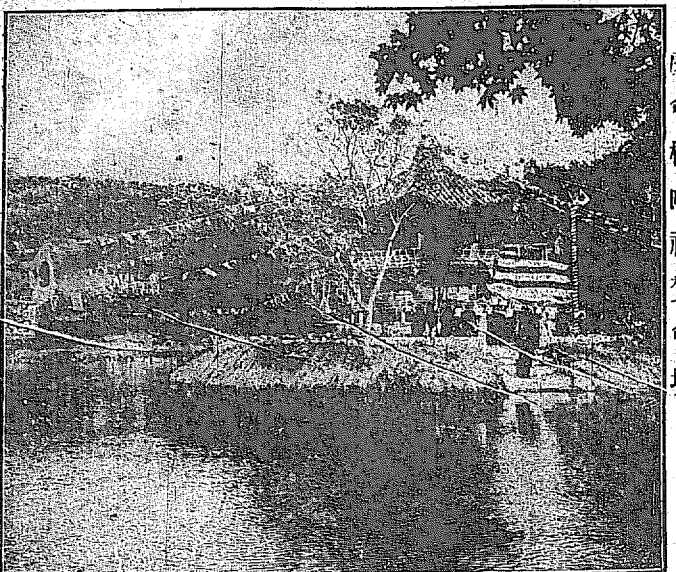
綺羅參差たる二千の會衆

「佳節の祝宴」は開始せられた。此日、山崎邸の庭に、天長節大祝賀會の如く、参差たる二千の會衆が、松の間を徜徉する外、夫人連の下に於て三十一日正午、天長の祝宴が開始せられた。此日、山崎邸の庭に、天長節大祝賀會の如く、参差たる二千の會衆が、松の間を徜徉する外、夫人連の下に於て三十一日正午、天長の祝宴が開始せられた。此日、山崎邸の庭に、天長節大祝賀會の如く、参差たる二千の會衆が、松の間を徜徉する外、夫人連の下に於て三十一日正午、天長の祝宴が開始せられた。

佳節奉祝

南山公園にて

「佳節の祝宴」は開始せられた。此日、山崎邸の庭に、天長節大祝賀會の如く、参差たる二千の會衆が、松の間を徜徉する外、夫人連の下に於て三十一日正午、天長の祝宴が開始せられた。此日、山崎邸の庭に、天長節大祝賀會の如く、参差たる二千の會衆が、松の間を徜徉する外、夫人連の下に於て三十一日正午、天長の祝宴が開始せられた。



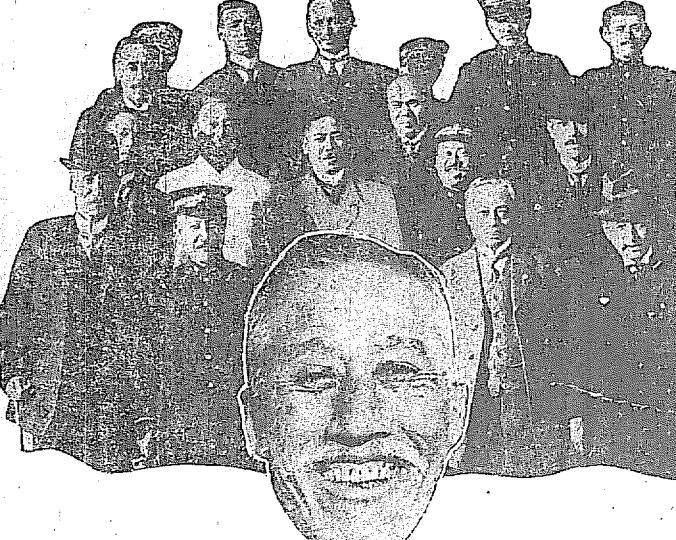
慶會樓畔祝賀會場

天長節觀兵式

龍山原頭光輝に輝く



秋風に馬首を立つ川村將軍。龍山原頭光輝に輝く。天長節觀兵式は、龍山原頭で開かれ、川村將軍が馬首を立つ。秋風に馬首を立つ川村將軍。龍山原頭光輝に輝く。天長節觀兵式は、龍山原頭で開かれ、川村將軍が馬首を立つ。



家庭博覧會

最終の日 家庭博覧會

「家庭博覧會」は、最終の日を迎えた。この日は、多くの来場者が集まり、家族の絆を深める機会となった。博覧會の最終日は、多くの来場者が集まり、家族の絆を深める機会となった。

大共進會

大共進會よ

「大共進會」は、大いに盛り上がった。参加者たちは、一生懸命に競技に参加し、勝利を収めた。大共進會は、大いに盛り上がった。参加者たちは、一生懸命に競技に参加し、勝利を収めた。



衛生經濟

衛生經濟

「衛生經濟」は、健康と経済の両方を重視する。本日は、衛生經濟の重要性について、専門家が講演した。衛生經濟は、健康と経済の両方を重視する。本日は、衛生經濟の重要性について、専門家が講演した。

蜂印香露葡萄酒

健康を欲せらるる諸君の忠實なる同伴者として

今や天下の同情と人氣を獨占したるものなり

確實に

毎朝の一杯は

元氣を旺盛にし

睡眠を能く

内外各國の金銀賞牌廿四個受領

酒清長醇双無

衛生無害

品質無双

造吟社合名藤首

バービニキ 買小御米白精

萬甲龜・油蔴 バービロボツ

種各一ダイナ引在矢三 種各

元賣發鮮朝

店支城京藤首

(番一七一話電)町金資

有樂館

本町一丁目

電話二六六番

新血を吐く前

武蔵野の未だ時代

活劇 前編 魔鏡

水戸黄門漫遊記

衛生經濟

兼備の逸品

是非一度御試し

下さい

見栄足金十銭(郵便金)

東京市東區小塚町

電話三八〇番

A black and white photograph of three men in a room. On the left, a man in a long coat and hat stands with his back to the camera, holding a long wooden staff. In the center, a man in a dark suit and hat holds a hat. On the right, a man in a dark suit and hat stands with his hands on his hips. The room has a stone wall and a wooden beam across the ceiling.

酒、高粱糖、高粱味噌など作れ其の工業利用法において見るべきものあり但し高粱糖は今のところ失敗なるを免かれず猶ほ近來高粱によりて砂糖を製出せんと企畫するものあり高粱中央試験所において其の企畫者の依頼により高粱より果して糖分を搾取し得るか其の糖分が果して良好なる砂糖たるを得るや否やを試験中なるが聞く所によれば之れも先づ見込なきものゝ如し此項高粱製糖の心に研究し居れり(天連)

始政五年共進會の第一號館鑛業部に龜城金山の金鑛鑄造場の模型が陳列されてあつたのを見落した人は恐ろしくあるまい。龜城金山の

▲鑛業權者とは古河合名會社であつて五百萬圓金會社は人の知る如く資本金五百萬圓金鑛掘込の大倉組社長に古河虎之助氏を戴き内地にては足尾銅山外十數箇所の金鑛山及び石炭坑を経営し尙ほ日光、花、崎等に精鑛製鍊工場を設けて年々多額の生産をなし風俗の大社會である、先年

漢城銀行は明治三十六年の設立にして鮮人側の金融機關として爾來尤々重きを加へ來り四十四年に至りては資本金三十萬圓より一躍して三百萬圓となし益々平高商工業の上に實績する處渺からずして業務日を追て平穩に開城其他三箇所に支店を置き地方金融の中樞機關となり更に置し地方大通りに出張所を開張するの勢を示し居れり朝鮮開發のみに於て最も必要なるは金融機關の

英獨全日を慶祝
十月卅一日より
黃金館
軍事大活劇
○十八號
鎗持勘助武勇傳
新落成電門二六六有樂館
萬曆十一年十月廿九日
本時代の武雄浪子○新派大不器用
最上大作上○泰西奇談大活劇○照
鏡鏡○三疊○同社の代表品○
水戸黃門漫遊記 全三十五回 水戸
公光公光公光
はなばな 師匠林之丞 全三十五回
中村時代 三浦右衛門守 園公
中村時代 三浦右衛門守 園公

るに
巡る
上り
は既
に發見せられたる露頭は百有餘に
餘萬坪の許可を得て試掘に著手した
れる鑛區二十九、面積二千四百九十
二箇所を以て現に探掘の期には種
模の經營を企てる一箇所の部屬六
石の多量は存在する事を期して本規
會社に奉る比較的品位が低くとも、價
品位は比較的低いやうである、併し
つき其平均を知り難いが概して合金
は特に金牌を授與して之を表章せ

乾柿製造講習 柿の名産地とし
從來多くの乾柿を出せる金嶺北道
王正乾柿製造の改良を加へ、昨
來王正乾柿より收神を觀して講習

同行には白宛氏の如き銀行長を
き有、食銀の韓相龍氏全力を擧げ
經營に任じ、今後益々金融擴張とし
の豫分を發揮せん、今同の共
會に際しても從來の功績に鑑み當

[illegible]

三三三
 巨額の資金を投じて大規模の採金事業を經營するには従つて鑛石を運搬することを精製に付する如く方法を執るとを戒め注意を重ねて掘鑛し大體の鑛量を知し茲に初めて鑛鑛の設備をなされねばならぬ、會社は此方針の下に採鑛に要する經費五十萬圓と定めて此期間は總價値を旨とし華達し全部鑛人を使役し支那人は現在一人も使用しない方針を執て居る

▲經營方針と產量 苟くも

日よ七十日間全州都府出面に於附近五箇面より三千名、諸習生をとり下田地に於て乾樹の製造鑛習なり

藥家庭博寄贈品
 ▲白米二斗入六俵京城精米所、
 ▲白米所▲露時贈一箇本町田中
 ▲附店▲味噌八俵券一〇枚大吸
 ▲一丁目町商店▲券一〇枚大吸
 ▲九百枚本町商店▲唐芋三臥
 大門通り松原筆藏

連絡船上陸客 三十日午後

[illegible]

青金とは實に多大のもので鑛石が二百七十萬貫、其内金が十八萬八百、銀が四十萬、青金が三萬三百に上り同鐵山の將來は既に非常に有望なことが確められた。是の如き盛況今回の共進會に於て當舊には其の功業の著しきを認め古川會社に對して名譽金を授けて之を表彰したのである

(客なし) 發并細三、利三、大子
安部山六郎、龜井正則、笠岡精二
支那六十兩、一噸箱八兩、銀幣三

同
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

帝王の儀範と人臣の軌法

天覽

成篋堂叢書

(文庫) 第七篇

天覽

眞に是れ君臣鑑戒の明鏡

家庭及學校教育の絶好資料

早川貞水講演 全六册 定價一册金四十五錢
郵稅二册金 六錢

日本赤穂義士
武士道

- (第一編) 堀部安兵衛、大石頑左衛門。
- (第二編) 勝田新左衛門、三村治郎右衛門、岡島八十右衛門、間重次郎千馬三郎長街、赤垣源藏、前原直平次。
- (第三編) 杉野重七、横山勘半、神崎五郎、矢頭右衛門七、金橋勘助、早水藤左衛門、茅野三平、武林能七。
- (第四編) 大高源吉、原坂右衛門、職員十郎左衛門、吉田忠左衛門、中村勘助、松村父子、片岡源五右衛門、岡野全右衛門、矢田五郎右衛門、木村國右衛門。
- (第五編) 大石内蔵之助、近松勘六、間宮兵衛父子、富谷半之丞、小野寺幸右衛門、貝賀彌左衛門、奥田父子、小野寺重内、富森勘右衛門。
- (第六編) 義士誠忠錄、赤穂城遷、南部坂等の別、泉指等詳定、計入。

本書は最も信憑すべき資料を基とし、之に貞水獨得の經驗酒脱の快辯を以て、月雪の中に命を捨て、死處を得たる四十七士の面目を、面白可笑しく説きたるもの。平易通俗にして分り易ければ、婦女老幼の讀物として以上乘無二なるのみならず、芳烈悲壯なる言句人を魅して感慨胸に迫り九陽子斷の思ひあらしむ。本社に通俗教育の好資料として、之を各階級の家庭に推薦す。希くは一本を藏せられよと云ふ。

大賣捌所 京城太平通一二丁目 振替京城三〇〇番 京城市報社代理部

〔本書の來歴〕 帝範は唐太宗貞觀二十二年、帝親ら撰し

て太子に賜へ、以後帝王の儀範を垂示し、臣軌は則天武后垂

拱元年、皇后が撰じて人臣の軌法を指示したるものに於て、

俱に見れば盛唐帝行親製する所に依り、後世範軌を双稱して、

君臣鑑戒の明鏡爲するもの、洵に所以ある也。

兩書の本邦に傳來するも久しくして、從て其の刊本の種類も

亦夥からず、學者其の選據する所に迷ふや茲に年あり、而し

て帝範十二篇は、支那に於ては宋儒已に其半を佚し、漸く清

朝乾隆の時に至り、又鄭大典中より抽出して、單行本として

世に出でたり。若し失れ臣軌に至つては、支那に於て全く散

逸し、唯だ頼みに我が寛文八年の刻本ありて置に彼に準ふる

あるのみ。其の學界の至寶たる天下の珍籍たるや知る可きもの

である。

〔原本の價値〕 此書は我國被劫學の泰斗、符合被奪の手

校に係るものにして、現存八年刊本を底本と爲し、其他家藏の

舊抄本各種の珍摺寫卷、武英殿版本等を以て校合し、諸善精

悉を極めたり。乃ち帝範臣軌の天地間に在るものにして、未

だ此書の如く完善なるものあり、更に被奪の最良市野述

庵の被奪の校定本に據りて再校補入したるものを、參照して

別冊に附したり。一たび之を見る者は、自ら肅然恭を正うし

て、古人の學問に忠實なるに敬服せんばあらず。

▲郵稅本社負擔▼

〔石版三度刷〕 今此書を成篋堂叢書第七巻收載、本

社獨特の寫真石版を以て良好の日本紙に印刷し、内外遠近

とも原本と異なる所なからず、仍ち被奪の考證に依る本體

兩條の手に記し、讀者をして此書の真偽を察せしむ。附

して、一點一劃の誤脱なきを期し、此種の珍籍本に於て、

未だ有て見ざる所の墨々、室の石版三度刷とせし、以て原

本の神彩と、被奪の寫眞の眞面目を傳ふ。

〔圖書の解題〕 別冊として帝範臣軌解題を添附す、是

れ成篋堂文庫主纂藤澤人の記する所に於て、此書の本體

本及び被奪手校本の考證等に就て、後博の識之を嚴じ、藤澤

の眼之を明し、讀者をして此書の真偽を察せしむ。附

して、四庫全書總目帝範解題、日本訪書志帝範臣軌解題、右文

故事臣軌解題、朝鮮編活本帝範序文影及及び序文、松陰堂

作持谷被奪齋蘭語、及び市野述庵再按本末並、並に補入を

以てす。仍ち帝範臣軌に關する凡ての考證と、被奪の本人を

知ると於て、此の如く懇切周到の注意をなしたるもの、亦以

て本書發行者の好古篤學の端を諒するに足らん。

第三十席 早川貞水口演

▲廣告▼

毛生法

醫學士張江領二先生「實験の上其毛をはやす効能」大にして現「世」最もすぐれた毛はえ藥であることを證明せられたロエ儿江流は「秃頭病」の毛をうす毛「腫物」をうす毛「其他」身體「中」あるべき所に毛なきに用いて皮膚に害なく奇效に毛をはえしぬけ毛を止めよから一度あつひになつた方は云ふに及ばず其特異の効果につき東京國民日日都々もと中央新聞以下全國諸大新聞に一面に報道されて居ます希望の方は遠慮無バガで申込込次第はしむ説明書封書で進呈す東京盛盛堂に



電話 八七四番 東京 藥房

○きんたよ

のはれだつちよう病こうがんなん
て困難方支持効良生詳報す二鐵
入申中し播磨明石相生田藤井源四郎

子宮サック

乙七十年
密造料全

ルーデサック

打五十五
純良品

杉本

大坂市西區新町通二丁目
田知本和三郎謹製

振替大坂一七三三番

大坂市西區新町通二丁目

田知本和三郎謹製

●炭火に注意せよ
火し燃え移りたるものなりと△十二時防ぎ見し直ちに消止めたる爲め女子九日午後十二時過き共進會演藝場等に至らざりしは幸なりき

事實
 は何よりも
 確かな證據
 である。命の
 母で子宮内
 血の道が滑
 つて、子宮
 を巻かれ
 れぬがは
 に出で此
 一卵を見て
 其藥効が
 知られませ
 う。諸君
 は上記諸人
 病者心得毎
 一試になれ
 は感荷ソウ
 カと會得が
 でせう。

人夫郎三鶴野紳 磁力伊磁和字磁磁



總店 東京五〇五〇番
支店 本局三〇一〇番

一葉藥房

銀座大坂三三八〇番
電話本局三三三五番

山久阿村 田山 太郎夫人



婦人藥として坊間に存
在せる諸藥劑に比して
卓絶せる効驗あるとな
る旨證明す

いのち
はは
で

命の母

一番よく使うのけ

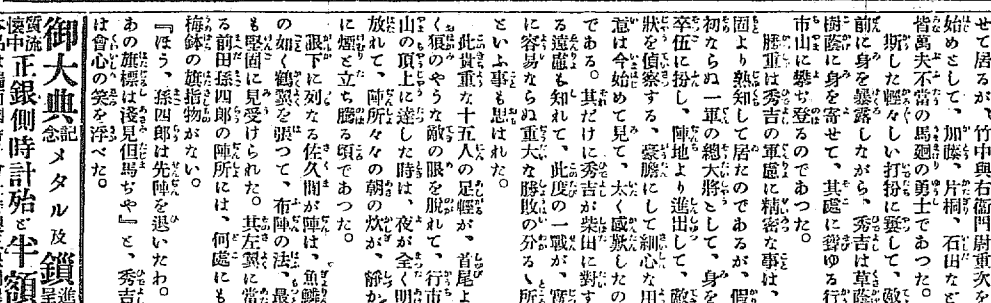
のくすり

です

[illegible]

「然らば、勝御堂堅固に勤めませう。」
『志は過分ぢや。足輕に堅固もあるまい。身近うは虎之助、助作、佐吉、與右衛門もある。只此のまゝにし番所を固く守るがよい』

秀吉は言ひ捨ててにして關門を出た。
(前接左を圍繞するのは同じやうな壁で、土間に於いては)

[illegible]

はる誤を擇撰の
品絶の一唯東關へ給
額年りた冠に國全高
購の大最是高造釀の
質品は力買購の

損の中
油醬クハキ
石千二萬六
りけ基に力
證實の越 倭

下
木茂
牧
油

總 野 國 田 町
七 郎 右 衛 門 釀 造
京 城 特 約 店
明 治 一 丁 目
野 商 店
電 話 二 五 三 番

秦の始皇帝

今若くはないは...日本の

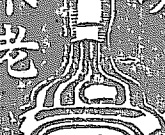
フェロール

補養料 體育保全

(譯名: 滋精) を得て満悦せ
理想的靈藥として愛用せらるべし

美味 凡ての人の嗜好に適し


不老 不死



効力 者は病者も健康
者も常用して

精力増進 無病長壽

の目的を達せしむ!!



萬歳

御大典の期日切迫して参りました、千載一遇の御大典には必らず此萬歳簾を掲揚して奉祝せねばなりませぬ時機を逸せぬ様に御注文を希望します

代理店 京城南大門通 新井樂房、京城太平通 キナラ樂館、釜山南大門 大星樂館、本浦 本下樂館、元山

會祝奉歳萬
賣販手一鮮朝
部理代社報日城京

番〇〇三城京番振

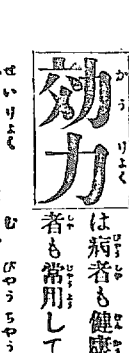
萬歳簾布定價表

略號	名	稱	品種	調製概略	寸法(曲尺)	一流の價格	郵送料
甲	記念掛額	純絹羽二重製金文字	長一尺六寸	六	拾	錢十二錢	
乙	奉祝佩用簾	純絹羽二重製金文字	長一尺六寸	一圓	十錢	十二錢	
丙	奉祝小簾	純絹羽二重製金文字	長一尺二寸	五	圓	十八錢	
丁	奉祝揭揚簾	純絹羽二重製金文字	長一尺二寸	八圓	五十錢	十八錢	
戊	同	特別製大形	長一尺八寸	三十	圓	三十錢	
己	奉祝小簾	金巾製捺染白文字	長一尺三寸	四	錢	六十錢	
庚	特製劔付塗竿	黒塗千段卷竿銀色劔付	長一尺五寸	一圓	五十錢	十八錢	

追て現品は本町ロシヤ物産商會鐘路韓盛商會及明治町村山商行へ陳列致し居り候間便宜最寄へ御申込被下度候

代理店 京城南大門通 新井藥房、京城太平通 キムラ藥舖、釜山溝大町 大黒藥舖、本浦 本上藥舖、元山港 石田 興隆、安東 延吉郡中藥池

美味不老不死



理想的靈藥として愛用せらるべし

美味は老幼男女凡ての人の嗜好に適し

効力

は病者も健康者も常用して

精力増進 無病長壽

の目的を達せしむ!!

適 症

- ◎ 腸胃虚脱
- ◎ 助腸神經
- ◎ 消化不良
- ◎ 食慾不進
- ◎ 肝後補血
- ◎ 貧血虚弱
- ◎ 肺病初期

業源 元町 衛生

大久保 師兵衛

賣捌は各藥店食料品店にあり

[illegible]